

大志を育む



令和4年3月10日

教育委員会だより

No. 45

発行：北広島市教育委員会

日々の取組に小中一貫教育の観点を

小中一貫・教育施策推進課 課長 富田 英禎

小中一貫教育の全市一斉導入から4年目を終えようとしています。今年度においても、新型コロナウイルスの波が押し寄せるなか、様々な対処と工夫を凝らして日々の授業実践に取り組んでいただきました。ありがとうございました。



さて、今年度一番のトピックとしては、「小中一貫教育全国サミット」を本市で開催したことに尽きるのではないのでしょうか。

授業公開校においては、小中一貫教育の観点をとらえた授業づくりに取り組み、全国から高い評価をいただきました。分科会では、それぞれのテーマに基づいた実践を発表し、本市の発表はもとより、他の実践発表とも相まって、小中一貫教育の目指す方法論が詳らかになったのではないのでしょうか。また、全体会では、アトラクションでの児童生徒の立派な発表に、先生方の日ごろの指導のたまものであると深く感銘を受けたところです。

全体会の中では、北海道教育大学釧路校の内山隆教授の基調講演がありました。その中では、小中一貫教育を教職員が協働して取り組む経験を増やし、9年間で子どもが育つ姿を通して、思考の枠組みを再構築することが大切であるのご指摘があったところです。そして、小中一貫した義務教育を推進することが、中教審答申で示された『令和の日本型学校教育』を一步先んじて実現しているのではないかと、ご評価をいただいたところであり、改めて今までの取組が有用なものであったと実感したところです。

現在、管内をはじめとして、全道、全国で義務教育学校や小中一貫型小・中学校が右肩上がりが増えていきます。北広島市で蒔いた種が、本市のみならず全道各地で根を張り、枝を上げ、実を結ぶことこそが、子どもたちの確かな学びと育ちにつながり、小中一貫教育の理解者・協力者を増やすものと考えています。改めて、ここまでのステップに達したことに、教職員の皆様方には厚くお礼申し上げます。

来年度の本市学校教育の基本方針では、小中一貫教育の「涵養」を謳っています。1本1本の木が、広がる森となり、それぞれが根に水を貯え、子どもたちの成長の土壌を育めるものとなるよう、日々の取組に小中一貫教育の観点がしっかりと染み込んでいることが「肝要」だと考えています。引き続き、皆様のご理解とご協力をお願いします。本当にありがとうございました。



広葉中学校区の小中一貫教育

めざしている小中一貫教育

1. めざす子ども像とスタンダード

▶めざす子ども像

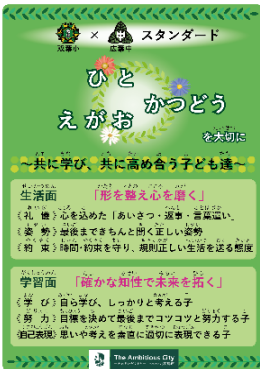
「共に学び、共に高め合う子どもたち」

- さまざまな活動での学び合い、関わり合いを通して、集団の高め合いや個人の成長を実現してほしいという願い。

▶スタンダード

(平成27年度～)

(令和2年度～)



- 義務教育9年間を通してめざす子どもの理想の姿を、教職員・保護者・地域で共有できるよう平成27年度に検討・確定。
- 「よりわかりやすいものに」という保護者や地域の声に応え、令和2年度に理想や理念を維持しつつ精選。

2. 小中一貫教育の組織

▶推進部会（スタンダードを実現する取組）

推進委員会

学びと研究部会 大志学推進部会 生徒指導・児童生徒活動

▶教科部会（小中一貫授業の実践）

| | | | | | |
|---------------|-------|---------|--------|-------|------|
| 国語部会 | 社会部会 | 算数・数学部会 | 理科部会 | 音楽部会 | 体育部会 |
| 図工・美術・技術・家庭部会 | 外国語部会 | 保健・食育部会 | 特別支援部会 | 大志学部会 | |

3. 小中一貫授業



広葉中学校区では、学び合い教え合いのある学習活動によって、自尊感情の高まり、表現・活用する学び、成長モデルの獲得といった

異学年の協働による教育効果を小中一貫教育のねらいと考え、教科部会ごとに「小中一貫授業」を実践している。「乗り入れ授業」はもちろん、小・中学生が一緒に活動する「合同授業」、教材などをやりとりして展開する「協同学習」など、授業形態はさまざまである。

今年度の取り組み

1. 小中一貫教育全国サミットでの授業公開

小中一貫教育全国サミットでの授業公開に向けた授業づくり・実践によって小中の協働体制が生まれ、小中一貫教育が大きく前進した。また、北海道教育大学の前田准教授が広葉中学校区の特徴を的確にフィードバックをしてくださり、自分たちの取組の成果と課題を再認識することができた。



2. すべての教科部会による小中一貫授業

小中一貫教育全国サミットの公開授業はもちろん、すべての教科部会で「小中一貫授業」を実践し、次年度以降の資料とするために動画での記録化を行った。

| | | | | | |
|---------------|-------|---------|--------|-------|------|
| 国語部会 | 社会部会 | 算数・数学部会 | 理科部会 | 音楽部会 | 体育部会 |
| 日本文化発信 | 防災教育 | 数と計算 | 体と運動 | 音楽づくり | 倒立 |
| 図工・美術・技術・家庭部会 | 外国語部会 | 保健・食育部会 | 特別支援部会 | 大志学部会 | |
| 造形遊び・コーシユ | 話す・発表 | おやつ・噛む | 紙すき | 係の仕事 | |

3. 小中一貫アンケートと小中一貫会議

小中一貫教育が持続可能な取組となるように、計画→実施→評価→改善の年間サイクルの確立を目指した。

5月と12月に広葉中学校区としての「小中一貫アンケート」を実施し、子どもたちの実態把握を行った。次年度からは12月に年1回とし、小中一貫教育の検証資料とする。

小・中の全教員で行う小中一貫会議は、令和3年度は10回だったが、次年度は内容を精選して、年5回実施する予定である。

| | | | | |
|---|------|------|-------|-------|
| 4月 | 6月 | 8月 | 11月 | 1月 |
| 方向性確認・組織確立 | 推進部会 | 推進部会 | 交流研修会 | 方向性検討 |
| 教科部会授業づくりは、小中一貫会議後に必要に応じて打ち合わせを行った取組を進める。 | | | | |